2024年５月17日

各　位

会社名　Ｋｕｄａｎ株式会社
代表者名　代表取締役ＣＥＯ　項　大雨
（コード番号 4425　東証グロース）
問合せ先　取締役　ＣＦＯ　中山紘平
（ＴＥＬ．０３－４４０５－１３２５）

2024年３月期　通期決算説明に関する質疑応答内容の公開のお知らせ

当社は、2024年５月16日、投資家・アナリスト向け決算説明会を開催いたしました。投資家の皆様にタイムリーに情報を開示するべく、質疑応答内容を本リリースにテキストにて公開いたします。また、決算説明動画や決算説明スクリプトURLを以下に再掲しておりますので、あわせてご確認いただきますようお願い申し上げます。

【2024年３月期通期　機関投資家・アナリスト向け決算説明会】

1.　開催日時：2024年５月16日（木）
2.　説明者　：代表取締役CEO　項 大雨
　　取締役CFO　中山 紘平
　　取締役COO　ティエン ハオ

▼▼決算説明動画はこちらからご確認いただけます▼▼
https://youtu.be/Lv_BljmrZng

▼▼決算説明スクリプトはこちらからご確認いただけます▼▼
https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS02977/90f73b01/ad20/4a94/8278/39cadcf23542/140120240513592623.pdf

▼▼決算説明資料はこちらからご確認いただけます▼▼
https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS02977/7733d13b/fd3e/4e3f/9f80/82257428e786/140120240513592588.pdf

【質疑応答内容】

1. 仮に現在の為替水準が、今期を通じて継続した場合、為替差益はどれくらいになるでしょうか？また、今期の税負担率はどれくらいになるでしょうか？

当期首の為替レートが仮に1年間継続した場合は、基本的に為替差損益はほとんど発生しません。為替レートが外貨高方向に動いた場合に、グループ内の債権債務から為替差益が生じる構造となっていますが、中でもポンドとUSドルの影響が大きい点ご留意頂ければと思います。

税負担率に関しては、現在は各拠点で原則として課税所得がマイナスとなっているため、利益に応じた法人税は生じていなく、税金の金額は少なくなっています。また多額の繰越欠損金もあるので、当面はこの状況が続くと見込んでいます。利益に応じた法人税以外に、資本金額に応じた税金などは一部発生していますが、ボリュームとしてはそれほど大きくない状況となっています。

2. 今期大きく売上高が伸びる中にあって、営業損益が小幅な改善にとどまる要因をご教示ください。

まず足元の事業状況としては、顧客製品化を達成して今後刈り取りを進めていく案件が大きく増えています。しかしながら、まだ並行して仕込みの案件も多く存在していて、刈り取りに向けての転換が進んでいる状況です。この転換は非常に順調に進んでいますが、顧客製品化の支援やソリューション化の仕込み、あとは人口知能や半導体との融合といったような仕込みに該当する投資も継続して進めているため、その影響により営業損益の改善見込みは今期は小幅に留まっています。

但し今後に関しては、非常に利益率が高い製品関連売上がどんどん増えていく見込みのため、営業損失の解消と利益の拡大が基本的には加速していくと見込んでいます。

3. 製品関連以外の売上についても、中期的な規模感をご教示ください。

足元では事業は非常に順調に進んでいて、顧客製品化・ソリューション化により売上の大規模化が大きく進んでいく見込みです。

一つの通過点としては、おおよそ2030年ぐらいまでを目途に売上全体で100億円の規模を想定し、今後の成長を進めていきたいと考えています。その中で、ライセンス販売を中心とした収益構造により、50%超程度の非常に高い利益率を今後目指していきたいと考えています。

4. 先進的かつ未来的なロボットへの取り組みからはどのように売上を見込んでいますか？

このような未来的なロボティクスの分野というのは、これまでも色々な取り組みをしてきましたが、特にきちんと案件として花開いてきていて、かつこのような技術のショーケースとして出てきているのが前期今期といった状況になります。我々は次世代の様々なソリューションに対

するコア技術を深層技術として提供していますが、技術のショーケースとしてこのような未来的な技術や、新しいロボティクスを問いかけるような取り組みをパートナーとやっていくことは非常に世の中に対して波及効果が大きいと考えています。

個別の売上の貢献はもちろんありますが、それよりも技術面での訴求力が非常に高まることが、事業面でも波及効果が高いと考えていますし、事業の進捗をさらに後押しするものと考えています。

5. Whale Dynamic 社の事業状況と、今後の御社売上見込みについて教えて下さい。

Whale Dynamic 社の事業状況については、現状中国国内だけではなく、中東・欧米においてマッピング、自律走行、自動運転などで幅広く当社と共同での事業開発が進んでいます。

Whale Dynamic 社の事業とそれに紐づく我々の案件は非常に好調で、例えばアメリカの Robomart という会社と、自動運転のコンビニというソリューションを開発していて 100 台規模の導入が決まっていますし、その他にも複数社と、例えばデリバリー向けの屋外ロボット、自動搬送ロボット、自動運転用の車といったものがそれぞれ数十台から 100 台規模で受注がどんどん決まってきています。

このようなロボットや自動運転の市場は少なくとも見積もっても数十兆円あるような状況において、Whale Dynamic 社との直接取引というのは今後も伸長していくと考えていますし、それ以外にも、Whale Dynamic 社が抱えているパートナーシップやエコシステムにリンクする形で、例えば Baidu・TIERⅣといったパートナーシップに対して Kudan のパートナーシップをさらに拡大して、大きく売上成長に取り組んでいくことも考えています。

6. 人口知覚と人工知能の融合とありますが、具体的な今後の展望や Kudan の事業への影響について教えて下さい。

今後の展望については、皆さんも現在流行の生成 AI などはよくご存知で使っている方も非常に増えてきているかと思います。そのような最新の大規模言語モデルと言われるようなものが、ものすごいスピードで進化していて、テキストや文章、画像、動画というところが非常に得意なためそれを中心に使われることが多いかと思います。我々の人口知覚の技術によってそのような平面やテキストみたいな所から、完全に 3 次元空間の情報に対して、このような AI が適用できるように技術を融合していくことに現在まさに取り組んでいます。

このような AI の進化においては、完全に新しい領域を大きく取り込んでいくようなイノベーションになるため、非常に多くの分野、3 次元やその空間が関わるようなあらゆるところで、AI がその真価を発揮するため、非常に大きな価値をもたらすと考えています。

その一つの例としては、デジタルツインにおいて様々な産業で使われていくことになると思いますが、そこにおけるインパクトは非常に大きくなると考えていて、こういった取り組みによっ

て我々の事業機会は非常に広がっていくと見込んでいます。

7. 24 年 3 月末の連結社員数と 25 年 3 月期に向けての人員増計画について教えて下さい。

前期末の社員数としては従来より大きくは変わらず、40-50 名規模を維持しています。今期の採用に関しても、事業が大きく進んでいる中で一定の人員増は想定していますが、これまでの採用ペースを大きく変えるような大幅な増加は見込んでいなく、基本的には 5-10 名規模での採用を想定しています。

8. DAMS は大型案件のズレ込みがあったとのことですが、こちらは 25 年 3 月期に売上が立つのか、また、その規模について教えて下さい。

大型案件の方針自体についてはパートナー・顧客と大枠で合意はしています。様々な案件の調整が入ることによりスケジュールはずれていますが、前期から継続して今期に案件自体は立ち上がり、売上に関しては、今期以降に継続してマイルストーンごとの納品などに応じて計上される想定です。

9. 営業黒字化を図ることができるのは 2026 年 3 月期でしょうか？

営業黒字化に関しては、これまでご説明してきた事業進捗が進む限りは時間の問題かと考えています。特に製品関連の売上に関しては利益率が非常に高く見込めるので、この成長を続けている限りは、早期の黒字化も達成可能で、その目線で我々は事業を進めてまいりたいと思います。

具体的な時期に関しては、来期2026年3月期の黒字化の可能性もなくはないと考えていますが、今期の事業進捗結果を以て具体的な見通しは出したいと思います。

※決算説明の内容に関するご質問につきましては、下記の問い合わせ先にて頂戴いたします。
また、ご希望の会社様には、個別取材も承りますので、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

■会社概要
会　社　名：Ｋｕｄａｎ株式会社
証券コード：4425
代　表　者：代表取締役 CEO　項 大雨

■お問い合わせ先はこちら